

# 鳥獣害対策だより

## 福島県避難地域鳥獣対策支援員とは

福島県では、2018年度より福島県避難地域鳥獣対策支援員を避難地域12市町村に配置しています。地域住民と共に鳥獣害対策に取り組み、コミュニティの再構築を図ることを目的としています。

主な活動として鳥獣の生息状況、被害などのモニタリング、有効な対策の現地指導などを行っています。

## 知って役立つ！対策情報！

### 柵の設置と管理 ~目的にあわせて設置し、正しく管理しましょう~

#### 柵の有効性

イノシシをはじめとした動物の被害対策として、柵の設置が有効です。様々な柵があり、適切に運用することで高い効果を得ることができますが、管理が行き届いていなければ効果を発揮できません。目的に応じた柵の設置と、使用している柵に応じた正しい管理を心がけましょう。

#### 柵の種類と管理

##### 1. ワイヤメッシュ柵

金属製のワイヤーを格子状に溶接した柵です。

部材が重いため、設置の労力はやや大きくなりますが、耐久性が高く、長期間運用できます。

柵の周辺に草が茂ると、動物が草に隠れて侵入する場所を探ることがあるため、定期的な刈り払いが必要です。

##### 2. 電気柵

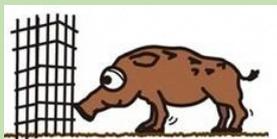
通電した電線により動物に刺激を与える柵で、動物に対して心理的な侵入抑制効果をもたらします。

設置の労力はワイヤメッシュ柵に比べて少ないですが、電線が草などに触れると漏電し十分な効果が得られないため、より多くの刈り払いが必要です。通電していない時間があると、動物は柵を安全なものと感じてしまい、効果が得られない可能性があるため、柵設置中は常に通電するようにしましょう。

##### 3. 複合柵

ワイヤメッシュ柵と電気柵を組み合わせた柵で、イノシシだけでなく、登ることが得意なハクビシンやサルへの対策を目的としたものです。

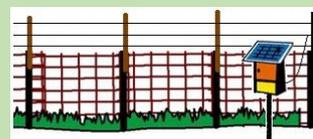
ワイヤメッシュ柵と電気柵、両方の管理が必要です。



ワイヤメッシュ柵



電気柵



複合柵



対策のご相談、情報提供はお住まいの市町村役場の担当課へ！

# ■地域での取り組み紹介（浪江町西台地区）■

## 背景

農地や住宅などの集落全体を囲む柵を「集落柵」と言います。設置や管理など、住民同士の合意形成、設置や管理の協力が必要ですが、柵の総延長は短く済みます。

浪江町の西台地区では、イノシシなどによる被害が発生していたため、2017年度にワイヤーメッシュ柵による集落柵を設置しました。



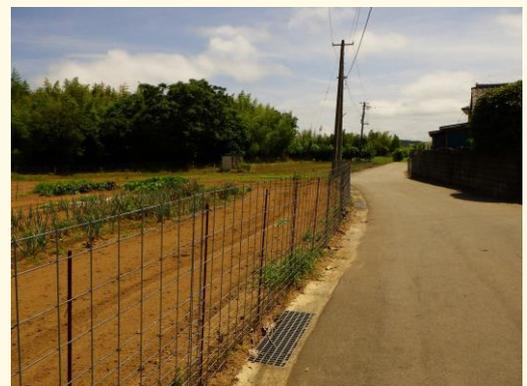
集落柵のイメージ

## 取り組み内容

柵を設置する場所や、人が出入りする門の位置などについて、浪江町役場と住民の間で話し合いがもたれ、様々な検討を経て、集落柵を設置しました。

柵は町が設置し、柵の効果を高めるため、付近の河川沿いにあった竹林や藪を刈り払いました。

集落柵設置後については、町と住民の皆さんで役割分担して、門の開閉や定期的な柵周辺の刈り払い、柵の補修などを実施しており、長期的な運用を視野に入れた維持管理がなされています。



柵の設置状況

## 結果

集落柵を設置する前と後に、集落内や周辺に自動撮影カメラを設置し、野生動物の出没などを調査しました。

柵の内側でイノシシは撮影されなくなり、集落柵の周辺でも撮影頻度が下がるなど、集落柵が有効に機能していることが検証できました。

住民の皆さんの協力が実を結んだ良い事例といえます。

今後も、町と住民の皆さんで柵の点検や維持管理が継続される予定です。

